



# 新潟市民病院

## 専門研修プログラム 専攻医募集案内

NIIGATA CITY GENERAL HOSPITAL  
SPECIALTY REGISTRAR RECRUITING GUIDE BOOK



新潟市民病院  
Niigata City General Hospital

所在地：〒950-1197 新潟県新潟市中央区鐘木463-7  
病床数：676床  
年間手術件数：6,699件  
年間救急車搬入数：6,592件  
年間ドクターカー出動件数：882件



## Access

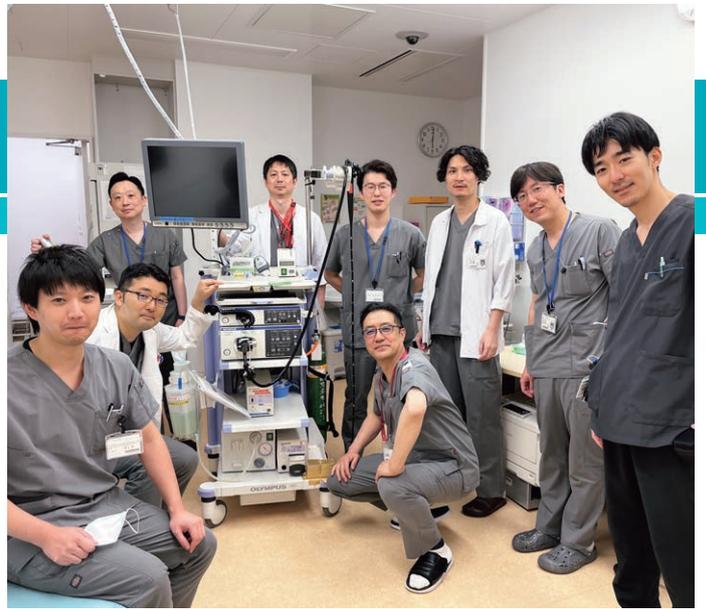
- ▶ JR新潟駅南口よりバス  
「新潟市民病院」下車すぐ
- ▶ JR新潟駅南口より車で約15分
- ▶ 日本海東北、磐越、北陸各自動車道  
新潟中央ICより車で約2分
- ▶ 新潟空港より車で約30分

駐車場の  
ご案内



# 内科

INTERNAL MEDICINE



## 研修プログラムの特徴

内科専門医の関わる現場は多岐にわたります。当院では、内科系救急医療、病院での総合内科（Generality）医療、専門的知識や技術で重篤な疾患に対応するSubspecialty、Subspecialtyを掘り下げることによって見えてくるGenerality、を学びます。本研修により、必要に応じた可塑性のある幅広い役割を果たせる内科専門医を育成するプログラムです。

## 到達目標

- ①新潟市および新潟県の医療環境に合わせた実践的な医療を修学し、全人的な地域医療を行える内科専門医を育成します。
- ②高度な総合内科のGeneralityと内科領域Subspecialtyの習得を目指し、将来、全国の医療機関で受け入れられる能力を持った内科専門医を育成します。
- ③本院の理念である「患者とともにある全人的医療」を追求し、バランスが取れた社会人として、優れた人格をもった内科専門医を育成します。

## プログラム紹介

期間3年コース（6名）と4年コース（2名）の2つがあります（今後、定員増の予定）。3年コースは、基幹施設2年間+連携施設（2施設を選択）1年間の3年間となります。表はSubspecialty重点ですが、Subspecialty期間の短縮は可能です。2連携施設は表のAとBとなり、この連携施設Subspecialtyは最大6ヶ月です。4年コースは、新潟県地域専攻医のみを対象としており、前期2年間で連携施設で、後期2年間で当院で行います。

※当院の専門研修は、消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎・リウマチ科、呼吸器内科、感染症内科、脳神経内科、血液内科、救急科、総合診療内科が協力して行いますが、2025年度時点でSubspecialty研修を行う診療科は消化器内科、循環器内科、脳神経内科、血液内科になります。

### 3年コース スケジュール例

1年目		2年目		3年目
新潟市民病院	連携A	連携B Subspecialty	新潟市民病院 Subspecialty	

### 4年コース スケジュール例

1年目	2年目	3年目	4年目
連携病院	連携病院	新潟市民病院 Subspecialty	

## 連携病院

- ① 3年コース：新潟南病院、木戸病院、新潟大学医歯学総合病院（新潟県新潟医療圏）、新潟県立坂町病院（新潟県下越医療圏）の内、2施設を選択します。
- ② 4年コース：厚生連長岡中央総合病院、立川総合病院（新潟県中越医療圏）、厚生連上越総合病院（新潟県上越医療圏）の内、1ないし2施設を選択します。

# 総合診療科

GENERAL INTERNAL MEDICINE



## 研修プログラムの特徴

基幹施設である新潟市民病院は救命救急センターなどを併設する高次医療機関であり、都市型のプライマリケア、重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を学びます。連携施設は地域の小規模病院である新潟県立津川病院で、山間部での地域医療、入院や外来の診療、訪問診療や地元の健康教育など、診療所の支援などを学びます。地域枠の方は、新潟県立中央病院での研修を行います。

## 到達目標

超高齢社会の進展や核家族化などに伴い、必要とされる医療も多様化しています。高度医療のみならず、患者や家族の生活に密着した支援、予防医学や健康教育、地域の大多数の健康問題への対応、福祉への関わりなどを通して、地域住民の健康全般に関わり、地域住民がより良い生活を行えるように、寄り添って支える医師が必要です。患者や家族、多くの医療福祉関係者とコミュニケーションをより密に行い、地域全体に関わることが大切です。このような、地域全体のチームとして医療を行うことができる医師となることが目標です。

## プログラム紹介

総合診療専門研修Ⅱ（病院総合診療）は新潟市民病院総合診療内科で学びます。この中で、その他の領域別研修として、産婦人科など他科の研修も行います。

総合診療専門研修Ⅰ（診療所・中小病院）は新潟県立津川病院で半年間学びます。その他、内科研修や小児科研修、救急科研修があります。内科研修、小児科研修、救急科研修は新潟市民病院または新潟県立中央病院（地域枠）で行います。3年コースと、新潟県地域枠専攻医のみを対象とした4年コースがあります。

### 3年コース スケジュール例

1年目		2年目		3年目
新潟市民病院		県立津川病院		新潟市民病院
総診Ⅱ	内科	救急 小児科	総診Ⅰ	総診Ⅱ

### 4年コース スケジュール例

1年目	2年目		3年目	4年目
新潟県立中央病院	県立津川病院		新潟市民病院	新潟市民病院
内科	救急 小児科	総診Ⅰ	総診Ⅱ	総診Ⅱ

**連携病院** 新潟県立津川病院、新潟県立中央病院（地域枠）

# 小児科

PEDIATRICS



## 研修プログラムの特徴

少人数制であり、一般的な疾患から専門性の高い疾患まで十分な研修が可能です。特に新潟市近郊を含めた救急診療の中心的役割を担っているため、一次から三次救急までの対応が習得できます。さらに小児外科と連携を密にしており、腹部疾患の初期診療なども十分な経験ができます。またスタッフは専門を持って診療にあたっており、専攻医が希望するサブスペシャリティ領域（循環器・アレルギー・内分泌代謝・神経・感染症）の疾患を豊富に経験できます。

## 到達目標

日本小児科学会が定めた小児科専門医に求められる到達目標を中心に、問診・身体所見の取り方、診断治療へと結びつける幅広い知識・確かな技術の習得を目標とします。また医師として必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性を身につけます。さらに研究への関心を高めるとともに、小児科専門医資格に必要な筆頭論文については指導医の助言を受けながらテーマを決め、論文に必要な医療統計、文献検索などを修得します。

## プログラム紹介

新潟市民病院を基幹病院として、小児科専門医として修得すべき25の領域の研修を行います。新潟大学医歯学総合病院では悪性腫瘍、膠原病、感染症コンサルテーションについて、新潟県立新発田病院では小児心身症と地域救急医療について、佐渡総合病院では一般診療以外にも健康増進、予防医学、育児支援などを総合的に担い、地域全体の小児を全人的・継続的に診療する能力を修得します（地域総合小児医療）。

### スケジュール例

専攻医イと口の研修病院の順番を番号で示した。1年目と3年目は基幹施設、2年目は連携施設

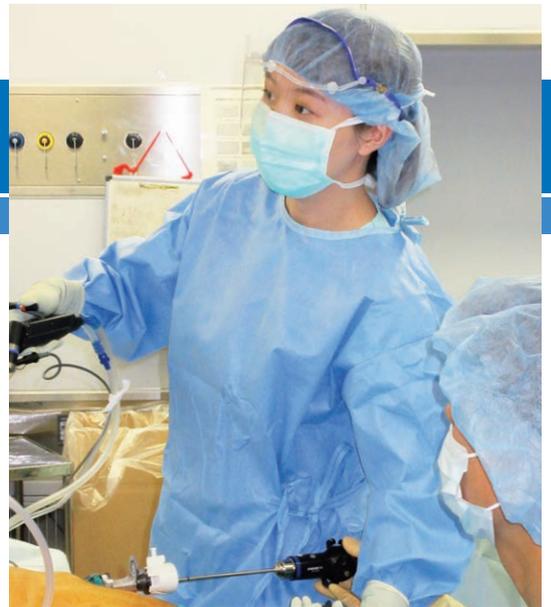
	研修基幹施設 新潟市民病院 新潟医療圏	連携施設 新潟大学 新潟医療圏	連携施設 新発田病院 下越医療圏	連携施設 佐渡総合病院 佐渡医療圏	研修基幹施設 新潟市民病院 新潟医療圏
専攻医 イ	1	2	3	4	5
専攻医 口	1	4	2	3	5
研修期間	12か月	6か月	3か月	3か月	12か月

### 連携病院

①新潟大学医歯学総合病院 ②新潟県立新発田病院 ③新潟県厚生連佐渡総合病院

# 外科

SURGERY



## 研修プログラムの特徴

「鉄は熱いうちに打て！」手術手技は、多数の臨床経験で加速度的に向上します。当院外科での年間手術数は約2,000例、プログラム全体の年間手術数は約12,000例と High volume・High quality な研修です。「手術のシャワーを浴びる」研修で手術技術の基礎が取得でき、学会参加、論文作成にて、「Academic surgeon」としてバランスのとれた外科医が育成されるプログラムです。

## 到達目標

- 1) 専門技能：外科診療に必要な手術手技・処置・検査に習熟し、これらの臨床応用ができる (Art)。
- 2) 専門知識：外科診療に必要な基礎的知識・病態を理解しこれらの臨床応用ができる (Science)。
- 3) 学問的姿勢：外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し、実践できる。
- 4) 倫理性・社会性：外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとしての適切な態度と習慣を身につける。

## プログラム紹介

新潟市民病院外科（消化器・心血管・呼吸器・乳腺・小児）を基幹施設とし、連携先は9施設です。新潟市民病院での研修は2年間を基本とし、連携施設は1～2施設を自由に選択可能です。外科専門医の必要症例数は約1年半で到達可能ですので、その後はサブスペシャリティを考えた研修も可能です。奨学金・地域枠対象者の場合は適宜変更可能です。また大学院への進学を並行して行える大学院コースも設定しました。

### 各領域発展コース

1年目	2年目	3年目
新潟市民病院	連携病院	新潟市民病院

外科全領域研修 → サブスペシャリティ領域の研修

連携施設は1～2施設を自由に選択可能です。  
奨学金・地域枠対象者の場合は適宜変更可能です。

### 大学院コース

1年目	2年目	3年目以後
新潟市民病院	連携病院	大学院

外科全領域研修 →

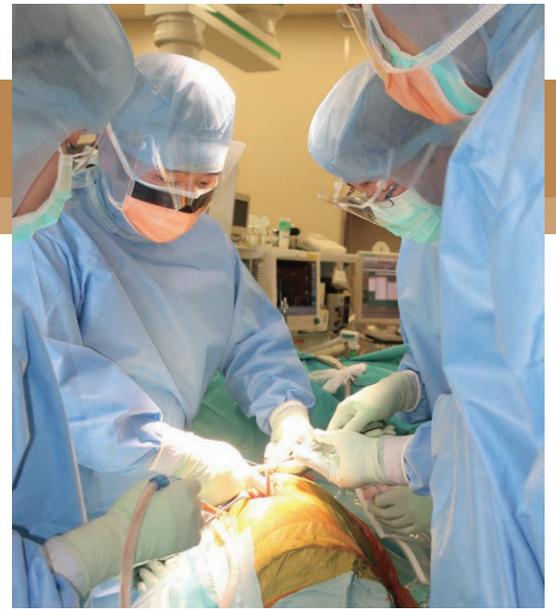
新潟大学大学院への進学は、研修3年目を予定しています。  
進学後の専門研修は新潟大学で行い、  
大学院修了をもって研修終了となります。

## 連携病院

鶴岡市立荘内病院・新潟県立新発田病院・新潟県立がんセンター新潟病院・新潟大学医歯学総合病院・  
済生会新潟病院・新潟臨港病院・長岡赤十字病院・立川綜合病院・新潟県立中央病院

# 整形外科

ORTHOPEDIC SURGERY



## 研修プログラムの特徴

新潟市民病院整形外科では全ての運動器疾患・外傷に対し高いレベルの急性期治療を行い、高いレベルの機能回復を目指します。本プログラムでは的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけることを目標とします。

重症運動器疾患や多発外傷症例が多く、救急科を始め他科と協力し急性期の高度治療を行っています。各専門分野の専門医が治療を行っており、その指導のもとで十分な経験を積むことが可能です。

## 到達目標

整形外科専門医に求められる基本的診察能力、患者さんに向き合う姿勢、他の医療関係者との適切なコミュニケーション能力を診療現場で習得します。日本整形外科学会が定める専門研修カリキュラムに基づいた知識、技能の習得、経験すべき症例、手術を3か月ごとのローテーションで計画的に達成します。プログラムに参加する各病院の症例数は豊富で研修中に自ら執刀する手術件数も多く、年間120件以上、3年9か月間で約500件を目標とします。

## 整形外科プログラム紹介

当プログラムを構成する病院名、指導医数、年間新患数、年間手術件数を以下の表に示しました。合計指導医数63名、年間新患数29,212例、手術数12,260件で、多数の指導医からの的確な指導を受け、診察や手術の執刀や助手などの多くの経験を積むことが可能です。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能です。

参加施設2023年実績	指導医数	年間新患数	手術数								
			脊椎脊髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計
新潟市民病院	5	1,727	289	172	351	375	10	7	31	6	1,241
新潟大学医学歯学総合病院	18	937	262	122	138	120	47	11	21	169	890
新潟中央病院	8	4,596	874	423	490	720	13	82	30	17	2,649
佐渡総合病院	2	8,379	43	191	115	369	0	40	0	38	796
長岡赤十字病院	8	2,647	300	42	182	875	90	0	62	43	1,594
長岡中央総合病院	6	3,376	324	473	221	438	2	106	3	8	1,575
県立新発田病院	6	2,916	199	43	247	517	0	21	0	11	1,038
県立中央病院	5	1,702	97	370	400	135	9	47	48	19	1,125
魚沼基幹病院	5	2,932	205	78	122	807	7	33	22	78	1,352
合計	63	29,212	2,593	1,914	2,266	4,356	178	347	217	389	12,260

### 新潟市民病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8~9時	検討会	検討会	検討会 抄読会	検討会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 脊椎術前検討会	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術

### 年次別研修例

年次	研修領域と研修期間			
1年目	手・上肢	下肢関節	脊椎・脊髄	流動単位
2年目	外傷(新潟中央)	手・上肢	下肢関節	脊椎・脊髄
3年目	腫瘍	小児	リウマチ	流動単位 リハビリ
4年目	佐渡総合病院	スポーツ	外傷	

# 麻 酔 科

ANESTHESIOLOGY



## 研修プログラムの特徴

当院を核とし、専門研修連携各施設の指導医が協力体制を取り、臨床・研究両面において、新潟から日本全国、さらには世界へと羽ばたく優秀な麻酔科医を育成することを目標としています。症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができます。特に超音波ガイド下神経ブロック、経食道心エコー、誘発電位測定に関しては優れた指導医が在籍しており、高いレベルでの研修が可能です。

## 到達目標

4年間のうちに、新生児から高齢者まで、低リスクの患者から低心機能や多発外傷などの重症例までを、予定・緊急手術を問わず満遍なく経験します。その過程で、超音波ガイド下の各種ライン確保や末梢神経ブロック、経食道心エコー検査などの基本的な知識・技術を習得し、各種病態に適した術前・術中・術後管理を学びます。なお、ペインクリニック研修を当院または新潟大学医歯学総合病院いずれかでの研修において必修とします。

## プログラム紹介

研修の前半2年間のうち1年間で、もう1年間を新潟大学医歯学総合病院にて研修を行います。残りの2年間については、専門研修連携施設AまたはBでの研修を基本とします。プログラムに所属する全ての専攻医が、経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようにローテーションを構築しますが、専攻医のキャリアプランに合わせて、ペインクリニックや集中治療に特化したローテーションも考慮します。

### スケジュール例

	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度前期	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院
初年度後期	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)
2年度前期	新潟大学	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (集中治療含む)
2年度後期	新潟大学 (ペイン含む)	新潟大学 (ペイン重点)	新潟大学
3年度前期	長岡赤十字病院	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度前期	済生会新潟病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度後期	済生会新潟病院	県立中央病院 (ペイン)	新潟大学 (集中治療)

### 連携病院

専門研修連携施設 A：新潟大学医歯学総合病院、新潟県立新発田病院、新潟県立がんセンター新潟病院、済生会新潟病院、長岡中央総合病院、新潟県立中央病院、長岡赤十字病院、立川総合病院、村上総合病院  
 専門研修連携施設 B：魚沼基幹病院

# 救急科

EMERGENCY & CRITICAL CARE MEDICINE



## 研修プログラムの特徴

当院は新潟市とその周辺、人口約100万人規模を対象とする医療圏の救急医療の砦として機能しています。救急医が救急診療の核を担い、各診療科は最新の専門的医療を救急医療に反映させ、質の高い救急医療を実践しています。当プログラムでは豊富な症例で臨床経験を積み、Evidence-Based Medicine (EBM) を重視し、適切な臨床判断のできる救急専門医の養成を目指します。常に global standard を意識した診療をモットーとしています。

## 到達目標

本プログラムでは急性疾患や外因性の病態や、重症度に応じた総合的判断に基づき、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを持った救急科専門医を養成します。特に多臓器の機能不全が重篤化する集中治療を要する病態においては中心的役割を担う医師を目指します。さらに地域における救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する能力の修得も目指します。

## プログラム紹介

当救急科は「救急外来 (ER)」と「集中治療 (ICU)」を診療の柱とし、プレホスピタル、災害医療にも積極的に参画しています。ER、ICU、プレホスピタル、災害医療、満遍なく研修可能です。外傷のIVRも当科で行っています。研修内容は個々の専攻医の要望に柔軟に対応いたします。また、新潟県地域枠に対応した研修スケジュールも可能です。

勤務体制はシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と医師の負担軽減を図っています。当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、もちろん産休・育休の取得も可能です。

### スケジュール例

時間	月	火	水	木	金	土	日	
8:30	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ			
午前		症例検討会		抄読会・Case study				
	ER・ICU・ドクターカー診療							
午後	トリアージ検討会(月1回)	画像カンファレンス(月1回)	デスクカンファレンス(月1回)	多職種カンファ(週1回)	レジデント勉強会(適宜開催)			
17:00	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ			
			プレホスピタル検討会(月1回)					
夜間	シフト制							

### 連携病院

**連携施設** 新潟県立新発田病院・新潟大学医歯学総合病院・済生会新潟病院・済生会新潟県央基幹病院・長岡赤十字病院・新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院・新潟県立中央病院・厚生連上越総合病院・熊本赤十字病院

**関連施設** 厚生連佐渡総合病院・新潟南病院・厚生連村上総合病院・新潟県立津川病院・新潟県立十日町病院・厚生連糸魚川総合病院・新潟市急患診療センター

# 産婦人科

OBSTETRICS & GYNECOLOGY



## 研修プログラムの特徴

新潟市を中心とした下越地域における3次医療機関として、幅広く周産期医療および婦人科診療を経験することが可能です。1～2年間の当院での研修に加え、サブスペシャリティ取得や大学院進学を見据えながらの研修施設選択も可能となっています。

## 到達目標

- 1) 専門研修1年目：内診、直腸診、経腔・経腹超音波検査、胎児心拍モニタリングを正しく行える。上級医指導のもとでの正常分娩取り扱い、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術ができる。
- 2) 専門研修2年目：妊婦健診および婦人科の一般外来ができる。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題症例については上級医へ確実に相談できる。正常分娩を一人で取り扱える。上級医指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術、腹式単純子宮全摘術ができる。
- 3) 専門研修3年目：帝王切開の適応を一人で判断できる。上級医指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開ができる。上級医指導のもとで癒着等やや困難な症例であっても、腹式単純子宮全摘術ができる。悪性手術の手技を理解して助手ができる。

## プログラム紹介

新潟市民病院産婦人科を基幹施設とし、地域医療を含む7施設での研修が可能です。3年の研修期間を基本として、生殖・内分泌領域、婦人科腫瘍領域、周産期領域、女性のヘルスケア領域における十分な知識・技能の修得を目指します。原則として、研修先は、連携施設と相談し、本人の希望を最優先させて決定します。また専門研修終了後は、自分で勤務先の決定が可能です。

### スケジュール例1

1年目	2年目		3年目
新潟市民病院	連携病院A (地域医療)	連携病院B*	新潟市民病院

### スケジュール例2

1年目	2年目	3年目	
新潟市民病院	新潟市民病院	連携病院C (地域医療)	連携病院D*

\* 周産期領域でのサブスペシャリティ取得を見据えた施設（聖隷浜松病院、大阪母子医療センターなど）の選択も可能です。

## 連携病院

新潟大学医歯学総合病院、厚生連佐渡総合病院（地域）、鶴岡市立荘内病院（地域）、済生会新潟病院、ミアグレースクリニック、聖隷浜松病院、大阪母子医療センター

# 先輩からのメッセージ



消化器外科  
須藤 翔



救急科  
島垣 俊理

## 外科医はスタートが9割！

このパンフレットを手に取った貴方は、運が良い。『知る人ぞ知る』、全国有数の症例経験数を誇る外科専門研修プログラムが、新潟市民病院にはあります。

専攻医の年間執刀数、150件超。もちろん、小手術だけではなくありません。鏡視下手術から肝胆膵高難度手術まで執刀機会を与えられ、専門医の指導を受けられます。地方だからと、侮らないでほしい。最先端のロボット手術、全国学会での発表、論文作成。必要な全てを学べます。

『鉄は熱いうちに打て』と言いますが、貴方にとって一番熱い時は、間違いなく今でしょう。志を燃やす今こそ、圧倒的な経験値を稼げる環境に身を置き、自らを研ぎ澄ますべきです。

当院の門戸は全国に開かれています。様々な背景を持つ専攻医が、目を輝かせながら充実した日々を過ごしています。そして、専門研修修了後の進路も自由に選択が可能です。すでに多くの先輩方が、日本を代表する施設へと活躍の場を広げています。

是非貴方にも、ライバルの三歩先を歩む、大きなチャンスを手に入れたい。

絶対に後悔させない、熱い3年間を約束します。

## 充実した教育体制に自信あり！

当院の救命救急センターは、厚生労働省が行っている「救命救急センター充実段階評価」において、新潟県で唯一、S評価を受けています。それは、全国の名だたる救命センターと遜色ない症例数、同等に質の高い医療を提供していることを意味しています。これは人材育成においても言えることです。当科には魅力あふれる救急専門医が多数在籍し、重症患者や複雑な病態へ対応できる力をつけるのももちろんのこと、集中治療・プレホスピタルケア・災害医療・医学教育・IVRなど幅広い分野で活躍できる救急医を育てる環境があります。

私自身、膨大な仕事の中で打ちのめされそうになる時もありました。しかし、上級医の先生方がしっかりサポートして下さることで、学びに変換しながら乗り越えられたと思います。専攻医2年次には、希望していた県外での研修を行い、全く異なる医療圏で貴重な経験を積むことができ、切磋琢磨できる県内外の専攻医の仲間に恵まれ、充実した専攻医研修を受けられました。

充実した環境で、学びの絶えない日々がみなさんを待っています。新潟市民病院で共に救命救急しましょう！

## 新潟市民病院 専門研修プログラム採用人数(2019年度～2024年度)

採用年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
専門研修プログラム							
内科	4	5	0	2	5	1	17
外科	1	2	3	2	3	1	12
整形外科	0	0	0	2	2	0	4
救急科	1	1	3	2	2	1	10
小児科	1	0	0	0	0	0	1
麻酔科	0	0	1	0	1	0	2
総合診療科	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	8	7	8	13	3	46

### － 専門研修支援室 － 『専攻医の支援体制、整いました！』

専攻医は日常の診療（労働）以外にも、学会発表や論文作成といった自己研鑽（勉強）の時間を同時期に確保しなければならず、やるべきことは実に膨大です。当支援室が、過重労働とならない環境作りや健康面のケアをお手伝いしますので、どうぞ安心して専門医を目指して下さい。 《専門研修支援室長 平山 裕》



The way is here  
to become a professional.

撮影：高橋俊行

## 病院見学を随時受け付けています

希望する日時・診療科等お知らせください

▶詳しくはHPをご覧ください



<https://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

▶専門研修支援室



[senmon@hosp.niigata.niigata.jp](mailto:senmon@hosp.niigata.niigata.jp)

HPはこちら



### 新潟市民病院

Niigata City General Hospital

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463番地7  
TEL 025-281-5151 FAX 025-281-5187  
<https://www.hosp.niigata.niigata.jp/>